



路 政 僧

日支兩國の懸案解決し、通商條約の改訂商議さるゝの機運に至る、前者は過去の事件を解決したに反し、後者は將來の對支新政策を定めむとするもの其の關係する所頗る重大。

支那が主張した現行條約の效力問題を其の改訂迄留保し、我の要求に對し至誠以て協議することを聲明するに至つたのは、支那の對外態度の常識化を物語るもの、之より兩國の關係常態に復して新條約商議されむ、支那も誓約に従ひ、日支兩國の地理的乃至は經濟的關係を考察し、誠意を以て合理的の要求をするが可い、殊に不平等條約の改訂にしても、最惠國約款の存する限り、我國との條約を改訂せずんば列

▽ △

英國グロスター公殿下、勳章捧呈の爲め來朝さる、是れ彼我兩皇室の親交敦厚なるを象徴するもの、我れ日英親善の爲に之を喜ぶ、併し之あるが爲に兩國民乃至は兩國政府の友情特に深甚なものとして無闇に喜ぶべきでない、蓋し英國がシンガポール軍港築造計畫

を放棄しない限りは、東洋の平和——兩國の親善は強固たらざる筈、殿下、幸に我國情と國民の平和的所望とを洞察され、英政府をして築城計畫を放棄せしめられむことを、謹しんで望むや切、之と共に我が國民は勳章捧呈に對し英皇室に深甚の敬意を表し旅情の御慰めを怠る勿れ。

國に對し實質的效果を收め得ない譯、自らの立場を省みて要求すべきを要求するが可い。

我國にしても對支強硬論等の逆時代的思想に誤られず、支那に對する最大の同情者たる襟度を持し關稅自主權の承認治外法權の撤廢等を解決し、將來に於ける我が新政策を接するが可い、要は兩國が各其立場を自覺し實際的の見地に於て利害を調和して協調するに限る、吾人之を望むや切、然るに何ぞ圖らむ、我が實業家より對支膺懲論を聞かむとは、「口舌文書の抗議を排して斷然たる措置を採れ」と言ふ、固より排日の暴舉未だ終熄せず我が蒙る經濟的不利は假令憤激に堪へずとしても、今は永遠に亘る大局の利益の爲に忍ぶ

べきの秋、徒に眼前の感情に驅られて、兎もすれば強硬化せむとする現内閣に膺懲論を以てする如きは吾人之を採らず、東西實業家の暴舉を戒む。

▽ △

軍縮の新提案やら外交關係頗る錯雜するの秋、我をして外務省の存否を疑はしむ、彼の不戰條約中に於ける「人民の名において」の文句も、日支懸案解決約案にしても、悉く世の問題を惹起した所以は、外務省官吏の不用意に胚胎する、蓋し法律的道徳的見地に於ける條約文句の價值論は別としても、ことの茲に至る迄には確に一考すべきもの、夫れをも爲さざる如きは職務に不忠實なものと可評、併し官吏の忠實義務を缺くに至つたのは、現内閣成立

以來、一時終熄してゐた所謂軍閥外交が擡頭し、夫れに新たに政黨外交が生じ之に相對抗して、外交的傳統を蹂躪され、爲に練達の事務官は去つて剛直の士は遠ざけられ、省内緊張味を缺くに至りしに依る、皆無省の名を生じたる所以、亦以て省内の實情を察知するに足る、我が外交の不振、專任外相の問題に非ずして、省内官吏の改造に在る、之を爲すには軍閥外交と政黨外交を驅逐するに在る、速に之を實現して列國の我に對する誤解を一掃し我が外交の平和的方針を宣揚せよ、夫れが專任外相問題以上の緊急事。

▽ △

何處からか傳稱されてゐる内閣改造問題、小改造としては拓殖大臣の設置

と專任外相の任命、大改造としては床次氏の入閣、夫れに政務官の大交迭、田中首相が何れの方法を選ぶにしても政界に一波瀾を送るは必定、併しながら「内閣が短命では責任政治は行はれぬ、大なる理想經綸を行ふにはこれに相當するだけの忍耐が必要だ。」此考へからすれば内閣の改造も内閣持續の爲にする必要手段、不得已計畫。

成る程、政争禍裡にある内閣では責任ある政治は行はれぬ、併し夫れは國民が信頼する内閣があつての上の話、言はゞ夫れは國民の信頼を前提とする、今の内閣に夫れがあるかの國民的總意を確めるには、議會の意思に徴するより外ない筈、樞密院や貴族院で吐責詰問をうけても無抵抗主義——樂天

主義を採る現内閣の醜態行動、假令之を快としないにしても、夫れは人情的考察、夫れの可否は議會に於てのみ決せらる、之を若し否認すとせば、夫れは所謂議會主義に對する懷疑思想、其の思想の培養を憂へつゝ、尙人情的考察に依る内閣の攻撃、法治國家に於ける國民の眞の聲ではない、彼是所論を混同する勿れ。

非立憲的實質を有する現内閣と言つたところで、之を存続せしむるのは議會——國民總意が運命附けたところ、若し之を否認する總意なりとせば議會を構成する現議員を選出した國民の誤、端的に言はゞ新黨俱樂部を組織するが如き、優柔不斷の議員を議會に送つた國民錯覺の罪、今頃に爲つて言ふ

を已めよ、併し此罪を上塗するものは床次氏の入閣、吾人斷じて之を不許。

政務官の交迭、人心を新にする手段としては亦妙、併しながら夫れに躍起と爲つて運動する者不知數、舊式政治家の獵官心裡を表はしたるもの、吾人之を排す、蓋し政務官の如き地位は我國實政治とは餘り關係はない、唯だ位階を喜び勳章を好む階級的古風に墮した者の熱望する地位に不過、所謂政治家にして一官吏を希ふ、自らを卑くするもの吾れ之を採らず。

▽ △  
堀切善次郎氏、淨化市會より選ばれて、東京市長の職に就く、氏の理想を實現せしめ度い、併し夫れは相手方市會の態度如何に在る。